

外国につながる子どもたちの支援体制の充実について

1 現状

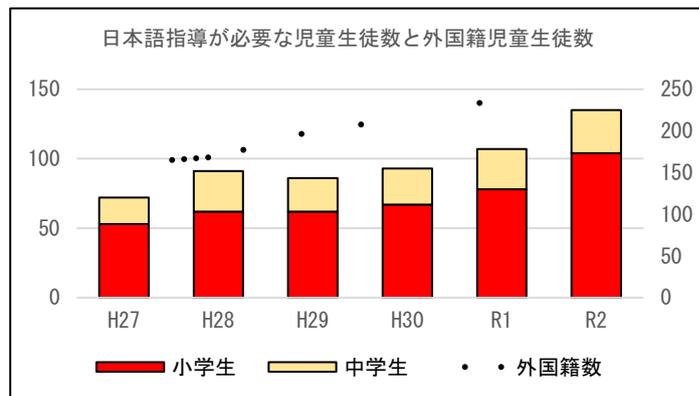
本市における日本語指導を必要とする児童生徒数は年々増加傾向にある。一方で、日本語指導教室の設置場所の偏りや配置数、指導内容のレベル、及びプログラムの周知不足などに課題がある。また、子供も保護者もコミュニティーの中で孤立感を感じている。

(図1)

【背景】

■対象児童生徒の増加

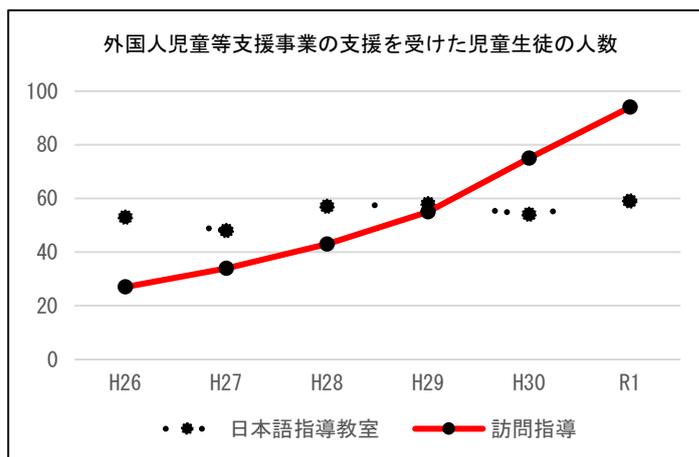
外国籍児童生徒は、増加傾向にある。それに伴い日本語指導が必要な児童生徒も小学生を中心に増加している。しかし、中学生においては、指導内容や指導体制に抵抗感があり、中学生のニーズは横ばいである。



(図2)

■対象児童生徒のニーズ

日本語指導教室の利用者数はほぼ横ばいだが、訪問指導要請は増加傾向にある。これは、日本語指導のニーズは高いものの、教室が市内に3カ所しかなく、一部の児童生徒にとって通級が困難であることが要因の1つである。(図2)



■保護者のニーズ

外国人保護者は、子どもが小さなうちに適切な日本語指導を受けたり、日本人とのコミュニケーションにより日本語に親しんだりする場の充実を望んでいる。(R1. 5 アンケート)

【子どもたちの姿・現状】

- ・生活に必要な言語の習得が困難で、学校でコミュニケーションをうまく図れない子がいる。
- ・授業に必要な言語の習得が困難で、学習でつまづく子がいる。
- ・中学生になると、通級指導や取り出し指導に対して、抵抗感をもつ生徒が増えてくる。
- ・市内各所に少数散在。地域コミュニティーに受け入れられることを望んでいる。
- ・例外的に三保地区に多国籍の子が集中している。

2 課題



(1) 外国につながる児童生徒の学習支援の充実

- ア ニーズに対応した、日本語指導教室の設置場所や設置数の増加
- イ 日本語指導教室及び訪問指導の指導内容の充実
- ウ 日本語指導プログラムの学校現場・保護者・子供への周知

(2) 受け入れ側としての日本人児童生徒への共生教育、保護者も含めた地域交流の場の充実

3 静岡市「多文化共生のまち」実現に向けて

(1) 学校教育分野でめざす本市の姿

- ◎外国につながる児童生徒が、できるだけ身近な場所で、日本語指導のサポートが受けられる体制が整っている。
- ◎充実した日本語指導のサポートを受けることができ、日本の学校に抵抗感なく通えるようになる。
- ◎外国につながる児童生徒を受け入れる共生の土壌が育ち、学校でも地域でも孤立感の少ない安心して生活できる社会をつくる。

(2) 令和3年度に直ちにに取り組むべき施策

		静岡ウィズユー(仮)リーフレット作成			
学校	学習支援 	日本語指導の指導内容や、指導の流れが分かり、個のニーズに応じた指導を受けることができる。			
		・日本語指導教室及び訪問指導による指導内容の周知			
			R1	R2	R3
	日本語指導教室(回)	30	30	35	
	訪問指導(回/人)	10~15	10~30	20~70	
		・日本語指導教室及び訪問指導による指導回数の増加 ・初期対応やニーズに応じた学習支援の研究 ・ICTを利用した指導の開始			
	受入体制	・日本人児童生徒に対する多文化共生に係るESD、シチズンシップ教育の実施 ・教職員に対する多文化共生に関する研修の実施			
地域	地域連携	・多言語交流会(日本語指導教室においてイベントを開催し、児童生徒・保護者・地域の方とのふれあいの場を設定する。) ・保護者を対象とした適応指導相談機能の充実 ・地域における交流の場について今後検討していく。			

R.2 総合調整会議

国際交流課、SAME教育委員会、ボランティア団体、大学、経済団体等の連携による総合的な日本語教育の推進

方針や対応の協議・実践

R.4
(仮)多文化共生のまち推進条例制定

(3) 令和4年度以降に取り組むべき施策

◎初期対応の充実

日本語のわからない児童生徒や、来日して間もない児童生徒が、本市の学校に通いやすくなるためのプレスクール

(SMCC…駿府マルチカルチャーセンター(仮))の開始

日本語の指導、および、本市の学校の様子や生活の仕方を伝えることにより、外国につながる児童生徒や保護者の不安を初期に解消することができる。

◎通いやすい環境の充実

市内で特に外国人の多い三保に日本語指導教室の開設

- 生活に必要な言語と授業に必要な言語の習得のためのプログラムの充実
 - ・日常会話指導及び教科につなげた日本語指導のカリキュラム
 - ・系統性を意識した指導内容の見直し
 - ・ICTを利用した発展的なシステムの活用



プレスクールでの指導の様子(浜松市)